

## カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2019年2月23日～2019年3月1日の推移】

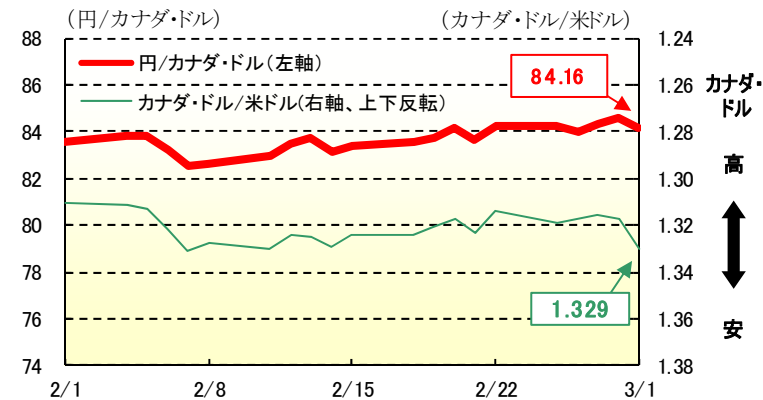
### 【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドルは、対円で横ばいになりました。カナダ5年国債利回りも横ばいになりました。

カナダの金利は軟調な経済指標の発表にもかかわらず横ばいでの推移でした。カナダ・ドルは対米ドルでは売られたものの、米国のGDP(国内総生産)が予想を上回る結果であったことなどから米ドル高円安が進んだことを背景に、対円では横ばいになりました。

経済指標ではCPI(消費者物価指数)が発表されており、ホリデーシーズンによる一時的要因での上昇の剥落により、前月よりも軟調な結果になりました。GDPも発表になっており、設備投資が低迷したことを背景に、事前予想を下回る結果でした。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2019年2月1日～2019年3月1日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。  
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

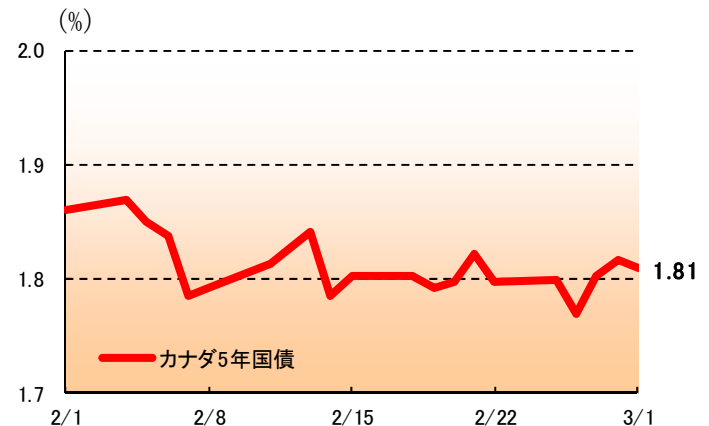
### 【2】今週の見通し

今週、カナダでは雇用統計の発表があり、前回よりも雇用者数の伸びが減速することが予想されています。また、カナダ銀行(中央銀行)の金融政策決定会合の開催が予定されており、政策金利は据え置きが予想されています。先週のGDPの軟調な結果を受け、カナダの利上げ観測が後退しており、今後の利上げペースに関してどのような声明文を出すかに注目が集まるものと思われます。

米国では雇用統計の発表が予定されており、市場予想を上回る結果になれば、米国金利の上昇圧力が高まり、それにカナダの金利も連れると見ています。

また、原油価格に関しては、サウジアラビアの減産を受け需給の改善が意識されていることから堅調に推移していましたが、トランプ大統領が原油価格の上昇に懸念を示し、OPEC(石油輸出国機構)を批判したことを受けて値を下げており、上値が重い展開が予想されます。

【カナダ 金利推移】 (2019年2月1日～2019年3月1日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <https://www.daiwa-am.co.jp/>